



ゆめ通信

2023.5.1. No.127

発行 日本養豚事業協同組合

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-10
八重洲早川第2ビル6階

TEL.03-6262-8990 FAX.03-6262-8991

第24期 支部セミナー開催概要

3月に行われた114回理事会において、第24期支部セミナーの開催が決定されました。詳細な日時、会場については現在検討中のため、次号掲載いたします。今回は3年ぶりに再会される全国7支部の支部セミナー開催概要をお伝えいたします。

① 養豚生産における基本的考え方について

豚事協の基本的理念であります、「良い豚、良い餌、良い管理」を改めてこの餌高の時代だからこそ、理事長、副理事長が自ら全国の組合員の皆様に直接お話させていただきます。良い豚の当組合で取り合うTopigsNorsvinの現状の育種改良による成績改善状況をお伝えいたします。また良い餌であります、組合指定配合飼料「ゆめシリーズ」がどのように効果を発揮するか、その価格と効果についても検証させていただきます。良い管理としてベンチマーキングを活用した経営指標を読み解いたうえでの管理指導をJASV管理獣医師の皆様のご助力をいただきながらいかに、いつまでも続くとは限らない補助金に頼らず、養豚家が自力で継続できる経営をどのように目指すかをお伝えいたします。

② ベンチマーキングを利用したことによる効果事例とJASVベンチマーキングへの参加方法

ベンチマーキングを利用している生産者とその管理獣医師1組で、ベンチマーキングを利用したことによってどのように成績が向上し、経営が改善されたのか事例を講演いただきます。また、JASVベンチマーキングの参加方法や仕組みも合わせて説明させていただきます。今回はそれぞれの支部でありあまり接点のない違う地域の獣医師や生産者の方々を指名させていただき、他の地域の動向や違いも合わせてご理解いただける場になればと企画しております。

③ 賛助会員による最新の商品、サービスのご紹介

豚事協の賛助会員の皆様に各会場にて最新の商品やサービスのご案内を予定しております。コロナ禍でなかなか遠方へ展示等を見学する機会が少なかったと存じます。是非ともこの機会をご活用くださいませ。

3年ぶりの支部セミナーにて全国の組合員の皆様再開できることを大変楽しみしております。改めて、今後とも日本養豚事業協同組合の活動を宜しくお願い致します。

支部	場所	日時	生産者 (予定)	担当獣医
北海道	札幌	令和5年9月	愛知県より	(有)あかばね動物クリニック
東北	仙台	令和5年10月	静岡県より	(株)バリューファームコンサルティング
関東	東京	令和5年11月	長崎県より	(有)サミットベテリナリーサービス
中部	名古屋	令和5年12月	茨城県より	(有)サミットベテリナリーサービス
中四国	松山	令和6年1月	広島県より	(株)ホグベットのクリエーション
九州	熊本	令和6年2月	宮城県より	(有)アークベテリナリーサービス
沖縄	那覇	令和6年3月	新潟県より	(有)サミットベテリナリーサービス

女性部部长就任ご挨拶と 豚事協第13回女性部主催ウェブセミナーのご報告

(有)マルミファーム 稲吉 幹子



ご挨拶

この度、豚事協女性部長に就任致しました愛知県、有限会社マルミファームの稲吉幹子でございます。組合員の皆さまにはお馴染み、前理事長の稲吉弘之は義父にあたり、現理事の稲吉克仁の妻です。私は16年前に非農家の家から稲吉家に嫁ぎ、右も左もわからない養豚の世界に飛び込みました。理事長だった父に勧められ、豚事協の女性部セミナーをドキドキしながら受講し、全国にはこんなに元氣な養豚家がたくさんいるんだと感激したのを覚えています。何度か女性部セミナーに参加しているうちに、気の合う仲間もでき、年に一度の女性部セミナーは、全国の仲間と勉強ができるかけがえのない場となりました。まだお会いできていない組合員の方は大勢いらっしゃると思いますが、多くの方と交流ができたらと願っています。不慣れで間に合わないことが多いと存じますがご指導のほどよろしく願い申し上げます。

豚事協第13回女性部主催ウェブセミナーのご報告

2023年3月8日に行われ、1部では(株)ビストロくるるん代表取締役松藤富士子様から「女性の活躍が地域の未来を変える」と題し御講演をいただきました。福岡県大木町にお住まいの松藤様は、若くしてご主人を亡くされました。ご主人にかわり、田畑を耕し、地域の女性だけの農業法人を作り、現在は農産物直売所や地産地消のレストランを運営していらっしゃいます。松藤様からは、女性農業者だから気づけたことを中心にお話を伺いました。経営しているレストランは、なんと地域のし尿処理循環施設に隣接しているそうです。

地元農家は処理施設でできた有機肥料を使って農作物を作り、レストランは農家から直接農産物を仕入れ、料理を提供する循環型の経営をしていらっしゃいます。当初はレストラン建設を反対されたものの、

現在は農家と消費者との距離が近く感じられるのがよいと地元で大人気なのだそうです。食の大切さ、命の大切さを教える食育事業にも積極的に参加されている農業者の大先輩の姿に感銘を受けました。

2部では、Y's Asset Design代表でエコノミストの山口曜一郎様より、「私たちにもできる資産形成」のお話を伺いました。お金を銀行に預けておけばよかったのは昔のこと。どのようにお金を貯めて、増やすことができるのか、わかりやすく教えていただきました。少額でもよいので、長く投資を続けることがコツなのかなと思いました。

当日はウェブ開催にも関わらず60名近い方が受講して下さりありがとうございました。どの方も真剣で山口様にはセミナー終了後も質問が絶えることがなく盛況に幕を下ろすことができました。

女性部セミナーは次回も魅力的な内容にしたいと計画中です。対面での開催を考えておりますので、久しぶりに皆さんとお会いできる日を楽しみにしております。是非、ご参加ください。



Y'sAssetDesign
ワイズ・アセット・デザイン
代表 山口曜一郎



株式会社ビストロくるるん
代表取締役 松藤富士子

夏場でも胃潰瘍を生まない管理

エクシュタイン・スワイン・サービス
獣医師 宮下 マリ

肥育豚の胃潰瘍に注意！

肥育豚の死亡原因として一般的に肺炎のイメージが強いですが、実際に現場で死亡豚を解剖してみると胃潰瘍の発生率が非常に多いことを経験します。なぜこれほどに多いのだろうか、どうしたら減らせるのだろうか、複数農場で試行錯誤しながら対応してきました。今回は胃潰瘍の発生原因と対策について考えたいと思います。

胃潰瘍はどうして発生する？

豚は特に胃潰瘍を発生しやすい胃の構造をしています。一般的に動物の胃は粘液や胃液を分泌する腺で覆われており、粘膜を胃酸から守っています。しかし、豚には胃腺がない「無腺部」と呼ばれる部分があり、胃酸による刺激を繰り返し受けることで胃潰瘍に発症します(図1)。胃は大きく分けて、噴門部、胃低、幽門部に分かれます。食道に近い部分、すなわち食べたものが胃に入ってくる入り口付近が噴門部であり、その中でも最も食道に近い部分が無腺部です。通常、食道から胃に食べ物が入ると、胃の運動により食物は胃酸や胃液と混ぜられ、少しずつ腸管へと移動します。しかし、食物が十分でない場合

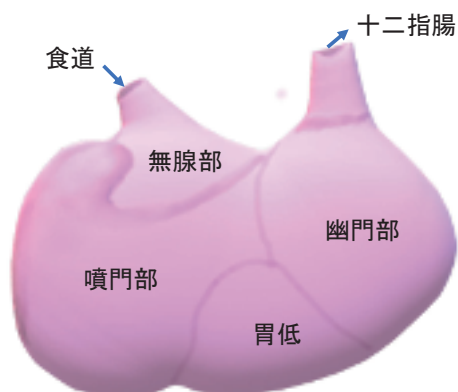


図1. 豚の胃の構造。胃潰瘍は主に噴門部の無腺部で発生する。

や水分が多すぎる場合、あるいは食物が胃を早く通過してしまうと、胃酸が十分に中和されず、酸の強い、pHの低い内容物が噴門部を繰り返し刺激して胃潰瘍の原因となります。また、ストレスは胃酸の分泌を促進することも知られているため、ストレスが多いと胃潰瘍の発生が増える可能性があります。

胃潰瘍はなぜ発生する？

どのように胃潰瘍が発生するかは前述のとおりですが、農場現場ではなぜ発生するかが、むしろ重要な問いになります。大きく分けると胃潰瘍の発生原因は二つに絞れるのではないかと思います。

1. 飼料の粒度が細かい。

飼料の粒度を細かくすることで消化率が増し、飼料要求率が高まることは知られています。一方、粒度が細かくなりすぎると胃潰瘍の発生が増えてしまうことも知られています。粒度が細かすぎる飼料は胃の通過速度が速まることにより胃潰瘍につながると考えられています。すなわち、胃酸が胃に多く残った状態で飼料が腸管に移動することで胃酸過多となり胃粘膜が刺激されます。飼料の形状としては、クランブルやペレット、リキッドフィードを給餌している農場で胃潰瘍が多くなる傾向にあります。一方、胃潰瘍の防止対策として繊維にも注目が集まっています。繊維分を増やした場合とそうでない場合の胃潰瘍の発生について数多くの試験データが存在しますが、単純に繊維分を増やすだけでは胃潰瘍の発生率が減るということではないようです。使用する繊維の種類や飼料の粒度が複雑に関連するからです。飼料の粒度以外に、胃の内容物の形状が重要とされており、液状の内容物ほど胃内の動きが多く無腺部を刺激しやすいことから、胃の内容物を固形化（水分吸収）できる繊維分がより有効だと考えられています。

2. 飼料を食べていない。

豚が十分に飼料を食べられない原因は多数あります。給餌スペースの不足あるいは密飼い、感染症による食下量低下、換気不足による体調不良や高温多湿の環境、給餌器の調整ミスやエサ切れ等、数多くの要因が挙げられます。この中でも特に注目したいのは感染症です。豚が何らかの病原体に感染すると、初期症状として食下量の低下が起きます。これは、目に見える症状（例えば発熱、元気消失、発咳）が現れる前に起こりますが、この一時的な食下量の低下の後に胃潰瘍が発生する場合があります。日々の食下量がモニタリングできる農場では、食下量が低下した時に素早く投薬を行うことで疾病を早期に治療し、その後の発症頭数を減らすことで胃潰瘍が減る場合もあります。特に胃潰瘍との「相性」が良い疾病は豚胸膜肺炎（App）です。Appは日和見感染の要素が大きく（ストレス誘発性）、胃潰瘍と密に関連しているように感じます。実際に、胃潰瘍が多く発生する農場ではAppの発生も多く、と場の胸膜肺炎による廃棄率が高い傾向にあります。ここで問題となるのは、胃潰瘍が先か、あるいはAppまたは肺炎が先か、の問題です。現場では死亡豚のすべてを解剖することは現実的ではないので、死亡豚の状態から肺炎、胃潰瘍、その他に分類することが重要になってきます（図2）。日齢ごとの死亡のピークを見た際に、肺炎のピークの後に胃潰瘍のピークが来る場合（約2週間後）、肺炎が先であることが考えられます。胃潰瘍と同時、あるいは胃潰瘍のピークが先に来る場合は胃潰瘍が原因で肺炎につながっている可能性が高くなります。

胃潰瘍の症状

胃潰瘍は急性と慢性胃潰瘍に分かれます。どちらの場合でも胃からの出血により豚は貧血の症状がみ

られます。慢性胃潰瘍の豚は体表が白く、体が細く小さい傾向にあります（図3）。一方、急性胃潰瘍の豚は大きく、突然に白くなって死亡し、死亡豚の体表は真っ白で腹が膨らんでいることが多いです。胃潰瘍が発生している農場ではしばしば下痢や軟便がみられ、その色も正常から赤みを帯びたものまで様々です。そのため、ローソニア（増殖性腸炎、回腸炎）との鑑別診断も重要になります。

胃潰瘍の対策

胃潰瘍の発生が多くなると事故率が急激に上昇するため、対策が急がれます。ただし、胃潰瘍は感染症とは異なり、発生の原因が多岐にわたるため、ある農場で奏功した対策が必ずしも別農場で同じ結果を出すとは限りません。従って、ここではいくつかの事例をベースに、胃潰瘍の原因と考えられる対策について紹介します。

事例1. 肥育農場でリキッドフィードにエコフィードを活用している事例。エコフィードは主にうどんや菓子パン等、小麦粉をベースにしたものを活用していました。ウィンドレス豚舎で、様子を確認すると豚舎内の湿度が高く、結露していました。給餌器のリキッドフィードはよく見ると泡が出ており、発酵している様子が見られました（図4）。給餌器のリキッドフィードを採取して飼料分析してみると、粒度が細かい粒子の割合が多い上、酵母発酵が確認されました。酵母は糖分を発酵することでエタノールを産生し、一部の豚が飼料摂取を拒絶していることが考えられました（エタノール不耐性）。特に高温多湿（夏場や換気不良）の環境では酵母発酵が促進されます。環境を適正にし、リキッドと同時にマッシュを提供することで胃潰瘍が減りました（ほとんどの豚はリキッドの方を好みます）。



図2. 胃潰瘍と感染症で死亡した豚の違い。胃潰瘍と貧血で死亡した豚は体表が白いことが特徴的（左）。一方、肺炎や敗血症（例えばAppやレンサ球菌症）で死亡した豚は腹部や四肢の内側が赤紫色に変色していることが多い（右）。



図3. 胃潰瘍の症状。体表が白く、細い豚では慢性胃潰瘍が疑われる。胃痛により、背中を丸めていることも多い。



図4. リキッドフィーディングで注意すべき点としては、夏場の飼料の発酵や腐敗による豚の食下量低下と、水と乾物の配合割合です。発酵の簡易テストとして、PETボトルにトラフのリキッドを入れ、常温で1時間～2時間置きます（左：正常な状態）。ペットボトルが大きく膨らんで泡が発生する場合には菌の過剰な増殖や酵母発酵の可能性があります。また、キッチンでは配合割合が適正でも、トラフに入った段階で固形物が少なかったり沈殿していたりすることがあります。トラフに入った飼料を確認し、混ざり具合を確認すると良いです（右：上辺の水が多く、固形飼料が沈殿している状態）。

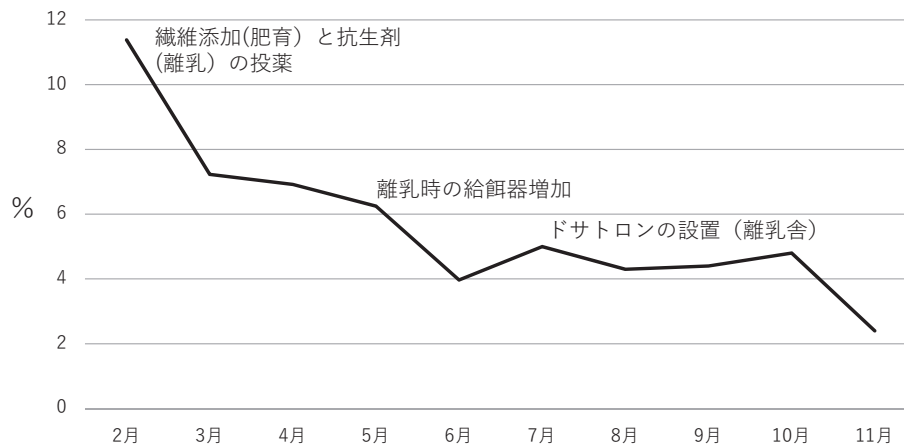


図5. 疾病の発生により発生した胃潰瘍の事例における事故率の推移。新しいPRRS株の侵入により離乳後事故率が増加し、胃潰瘍の発生が急増。繊維の添加と投薬で事故率は約4%減少、更に離乳後の食下量増加のための追加の給餌器設置や飲水投薬のためのドサترون設置等により継続的に改善。

事例2. 一貫経営農場で肥育にリキッドフィードを活用している事例（リキッド用の配合飼料でエコフィードの活用なし）。環境は良く、飼養頭数に対しての給餌スペースも適正で、増体は非常に良いものの、大きい豚が突然死亡する問題が発生していました。解剖し検査を実施すると、原因はAppによる肺炎と同時に発生する急性胃潰瘍でした。Appに感受性の抗生物質を添加したものの、大きな改善はみられませんでした。トラフに入っているリキッドフィードの状態を確認すると、水と固形物が分離し、水っぽい状態になっていました（図4）。そこで、水と乾物の配合割合を変更し（乾物：水= 1:4から1:3.5に変更）、乾物を増やしたことで胃潰瘍の発生も肺炎の発生も大きく減り、事故率が大きく改善しました。一部の豚が水ばかり摂取し、液状の内容物が胃内で動いて無腺部を繰り返し胃酸で刺激したことが原因ではないかと考えられました。

事例3：離乳～肥育の農場。PRRSは安定していたものの、それまで農場になかったPRRS株の侵入が確認されてしまいました。それにより、子豚での呼吸器症状（40～60日齢）と、肥育舎での白い豚による事故率の上昇がみられました。飼料は人工乳後期からクランプで、以前からの変更はありませんでした。解剖するとそれまでに見られなかった胃潰瘍が多発しており（60日～120日頃まで）、40～50日齢の子豚でPRRSとPCV2が検出されたものの、肥育豚では胃潰瘍のみで、病原体は検出されませんでした。対策として、肥育移動時～120日齢までの豚の飼料に繊維を1%添加し（製品名：アーボセル）、離乳舎で

白い豚がみられる豚房では同一の繊維を手ぐれでトップドレスしました。また、子豚のPRRS対策としてチルバロシン酒石酸塩を間歇で添加しました（繁殖農場がPRRS陰性のため、ワクチンを使用することが不可）。さらに離乳直後の子豚の食下量を促進するために給餌器を追加し、レンサ球菌症に対応するために離乳舎でのドサترون設置し、事故率は徐々に低下しました（図5）。疾病による食下量低下が主な原因と思われる胃潰瘍の発生事例です。

胃潰瘍の発生は複合的

胃潰瘍が発生する原因が1つではなく、複合的であることを理解することがとても重要です。それぞれの農場で違った要因が影響している可能性があるため、豚の症状、飼料の状態（給餌スペースの不足、飼料が粉々になっていないか、リキッドの乾物量が足りているか、発酵していないか等）、死亡原因の診断（胃潰瘍のみか、肺炎が併発しているか）、環境要因による食下量低下（高温多湿やアンモニアガス濃度等の上昇）、ストレス要因（風が当たる、尾かじりの増加等）をリストアップし、原因を究明していく必要があります。原因が見つかり適正な対策を講じれば胃潰瘍は激減し、生産成績も大きく改善するはずです。

引用文献

1. Revista NutriNews Marzo 2017. Influencia de la alimentacion in ulceras gastricas de cerdos.

シリーズ 胃潰瘍をコントロールするには 農場の実際から読み解く問題究明

飼料効率の向上をねらい、クランブル化やリキッド化が養豚飼料ではすすんできました。一方で農場では胃潰瘍による死亡が増え、一因に飼料の粒度が指摘されております。こちらのコーナーでは実際の農場でかかえる問題点を追及し、胃潰瘍をコントロールしていくための解決策を検討していきます。

松村牧場 専務取締役 松村 淳

○松村牧場の概要（埼玉県加須市）

- ・283頭一貫経営
餌は全量豚事協ゆめシリーズを利用
候補豚舎を除き、全てウィンドウレス豚舎

<年間生産成績 2022年1月～12月>

稼働母豚 283頭

年間1母豚当たり出荷頭数 30.11頭

年間1母豚当たり離乳頭数 31.52頭

離乳後事故率 3.07%

農場飼料要求率 2.75

肉豚要求率 2.42

ワクチン抗生剤費/肉豚 ¥847

PRRS陰性



松村牧場 専務取締役 松村淳氏

離乳子豚舎での実際

離乳子豚舎は、25日令～80日令。事故率は1%前後。胃潰瘍の発生は7月～9月の暑い時期に0.5%（2～3頭）いるかな程度です。他に主な死亡原因は、発育不良でガリやチビ、時々肺炎で突然死位です。

餌は約40日令で「ゆめ15CR」、約60日令で「ゆめ子豚CR」を給与。餌の切り替えもスムーズで、食が停滞する事もなく、餌こぼしや餌切れも無く、かなりしっかり管理していると自負しています。なので、ストレスも無く、豚にとって非常に環境が良いのだと思います。抗生剤の飼料添加も一切していません。

肥育舎での実際

肥育舎は6年前に建て替えました。ウィンドウレス豚舎です。メリットは、一日中一定の温度管理が出来、豚にとっても最適な環境が確保出来る事です。

餌箱は「マシンガンフィーダー」を使用しています。事故率は普段2～3%。死亡の原因は、胃潰瘍が1.5%位（月10頭）。他は、発育不良や尾かじり、季節の変わり目に肺炎で時々死亡します。

餌は「ゆめ子豚CR」から90日令～100日令で「ゆめ肉豚CR」を給与しています。

弊社が抱える胃潰瘍の問題点と対策

胃潰瘍で悩むステージは肥育舎で、しかも期間限定夏の暑い時期（7月～9月）の3ヶ月のみ。農場は暑さ日本一の熊谷市に隣接し、日中35℃～40℃が数日間連続で続く酷暑地域です。その中でウィンドウレス豚舎で暑い空気を抜くのがかなり大変で、通路に設置してあるクーリングパッドからの冷気を舎内に取り込んで、風を送っていますが、舎内は30℃以上で湿度もあり、豚がかなり不快に感じている状

況です。

餌箱のマシガンフィーダーには水を溜めてしまい、餌よりも水をガブガブ飲み、日中は餌を食べていない状態で、夜中少し涼しくなってから食べ始めています。正に胃潰瘍を発生する状況そのものなのです。事故率は普段2～3%が4～5%に上昇し、出荷も10～14日程毎年遅れてしまいます。

2020年にはようやく母豚が全頭Topigsに切り替わり、生産成績も大幅に良くなり、飼養頭数も増加し豚舎の空舎期間もしっかりとれなくなり、2021年には離乳後レンサが発症するようになり、そこから発育不良が増え、事故率が上昇するという悪循環になりました。その為2022年には稼働母豚を減らし、疾病が動かないギリギリの生産頭数を確保しながらの運営をしています。適正な生産頭数にした事で、事故も落ち着いてきました。

そして、2022年の胃潰瘍対策として、5月～9月

末まで「ゆめ肉豚CR」から「ゆめ肉豚60」、いわゆるクランブルからマッシュに変更し、対策を講じました。しかし結果は残念で、要求率はガタ落ちし、事故率はいつもの夏と変わらないという、何ともやり切れない結果となってしまいました。

対策を振りかえり、今年の対応

今年には餌の変更はせず、暑くなる前に、舎内に工業用扇風機を必要な台数を設置し、豚に直接風を送ってみようと考えてます。

夏場3ヶ月の胃潰瘍の改善が出来れば、年間の生産成績は、もっともっと上を目指せるし、経営の更なる安定に繋がる事は間違いないので、しっかりとチャレンジしていきたいと思います。

失敗を恐れず、まだまだ伸び代があると信じ、スタッフと共にかんばります。



松村牧場遠景



肥育豚舎

表1 松村牧場過去4年間の年間成績

期間	農場要求率	肉豚要求率	平均枝肉重量 (kg)	平均肥育日数 (日)	事故率 (%)
2019	2.88	2.51	77.2	184.4	2.82
2020	2.77	2.46	77.8	180.0	3.72
2021	2.79	2.46	78.7	174.8	4.19
2022	2.75	2.42	78.5	175.5	3.07

表2 松村牧場過去4年間の7月～9月成績

期間	農場要求率	肉豚要求率	平均枝肉重量 (kg)	平均肥育日数 (日)	事故率 (%)
2019	3.00	2.61	73.6	200.1	3.63
2020	3.15	2.82	76.5	196.5	4.82
2021	2.86	2.50	77.0	190.7	5.91
2022	3.18	2.85	75.8	201.1	4.01

入職のごあいさつ

矢原 芳博

この4月から、日本養豚事業協同組合に勤務させていただくことになりました矢原芳博と申します。前職は、配合飼料メーカー（日清丸紅飼料株）で獣医師として家畜の疾病診断ラボに長く携わっておりました。直近では研究所長や技術サポート部長、黒豚の種豚場の社長などのマネジメント業務も経験してきました。組合員様の中には、診断ラボ時代に農場にお伺いさせていただいた方々もおられますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。養豚を取り巻く環境は厳しい状況が続いておりますが、最新の情報を活用し、豚の持つ能力を最大限発揮できれば道は開けると信じております。組合での業務は新たな経験で、最初は戸惑うことも多いと思いますが、過去の経験も活かしながら、少しでも皆様の養豚経営の一助となるべく、心機一転頑張る所存ですので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



第2回若者が夢を語る会開催日決定のお知らせ

昨年7月1日、2日に第1回を開催し会場に収まらないほど募集があった若者が夢を語る会（以後、若夢会）の第2回が開催決定いたしました。

前回同様、座長は山本副理事長のもと豚事協会員だけに限定せず養豚農家であれば40代までの方ならば、だれでも参加できるオープンな場として開催いたします。前回より会場を大きくして行いますので、前回参加の方も是非ともご参加ください。

記

日時：2023年6月30日（金）13時開始・17時懇親会、
7月1日（土）9時開始、12時解散予定
場所：東京・銀座フェニックスプラザ（東京都中央区銀座3丁目9-11）
JR有楽町駅より徒歩8分、東京メトロ銀座駅松屋出口（A8）徒歩2分
会費：勉強会参加は無料、懇親会参加は有料
申込：5月10日より豚事協HPにて申込用紙、申込フォーム公開予定

以上

豚事協共同購入商品リニューアルのご案内

「ゆめ脱臭NYK」がリニューアルにより性能を維持しつつ、 大幅な値下げとなります！！

【特徴】

今までカナディアンフミンの腐食の力でおい物質を吸着分解すると共に、堆肥の発酵促進にも力を発揮していましたが、このカナディアンフミンから黒土のバイオトップサンドに置き換えることで効果は同様に発揮しつつ、大幅な値下げを実現いたしました。

このバイオトップサンドはすでに様々な実験や実際の利用実績もある製品ですので安心してご利用いただける商品になっています。

【リニューアル時期】 2023年4月～

【価格】

ゆめ脱臭NYK 9,240円 から 7,260円 (送料込み・税込み)

※発注は2袋単位 (20kg/袋) (例：2、4、6袋など、偶数) をお願いいたします。



豚事協の第24期行事

理 事 会

第 1 1 5 回 令和5年6月15日 (木) (東京)

豚 事 協 セ ミ ナ ー

北海道支部セミナー 令和5年9月
東北支部セミナー 令和5年10月
関東支部セミナー 令和5年11月
中部支部セミナー 令和5年12月
関西中四国支部セミナー 令和6年1月
九州支部セミナー 令和6年2月
沖縄支部セミナー 令和6年3月

女 性 部

第14回女性部セミナー 令和5年 日程未定

そ の 他

海外視察研修 令和5年6月6日～12日 (アメリカ)

※青字は令和5年5月1日以降の行事となります。都合によっては変更・中止となる可能性がありますこと、ご了承下さい。

編 集 後 記

「開花を宣言します」春の風物詩、桜の開花宣言が東京では異例ともいえる3月14日に行われました。3月に入り暖かい日が続くとは思っていましたが、観測史上最速で全国でもトップクラスの早さに驚きを感じません。全国でも史上最速の開花日、満開日の地点が続発し「暖かい春、早い春」を実感できる日々となっております。

例年東北や北海道の桜といえば満開ごろにゴールデンウィークという観光シーズンを迎え大賑わいと思われていますが、今回はその前に散ってしまいそうな勢いです。しかし、観光の勢いはさつとすこいことになるでしょう。連日東京駅には多くの観光客でにぎわい、海外の旅行者も4月に入りとても多くなってきました。

旅行代理店大手 JTB の調査によると2023年ゴールデンウィークは旅行者数 2,450万人、海外旅行者 20万人と海外はまだ少ないもののコロナ禍以前の2019年数値にほぼ同水準になると予測されています。国内旅行平均費用を34,800円、海外旅行平均費用を257,000円と算定した期間の総旅行消費額が9,040億円 (2019年比 81.4%) になるということです。観光需要の再興、この盛り上がりに合わせて豚肉消費の拡大も続くことを祈るばかりです。この調査では今年のゴールデンウィークで気になるのは、「自然が楽しめる場所」「食をメインとしたイベント」となっており全国の各地域でこのようなイベントごとに豚肉が関連することを期待してやみません。

さて、旅行といえはよいよ 2023年豚事協の海外研修を再開いたします募集はすでに締め切りましたが、今回は6月に Pork Expo 視察もかねてアメリカ合衆国のアイオワ州デモインを中心に農場視察も予定しております。視察結果は次回から次々回の号に掲載する予定です。筆者の事務局加藤も今回参加させていただきますので、現地の状況をしっかりと視察し、皆様へ報告させていただきます。個人的には初のアメリカ、ドキドキです。(加)